

I 一般会計事業報告

(第25年度)

平成20年4月 1日から

平成21年3月31日まで

県土の8割を占める森林は、木材の生産のみならず国土の保全、水源のかん養、保健・文化・教育の場としての利用など、多面的な機能を発揮することにより、安全で快適な県民生活を実現する上で重要な役割を果たしています。

更に、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の吸収・固定や、森林資源の木質バイオマスとしての活用などへの期待も高まっています。

そのような中、当財団としましては「長野県ふるさとの森林づくり条例」の具体的な指針である「森林づくり指針」に基づき、森林や身近なみどりづくりを行政・NPO・地域住民との様々な形での協働を進め、多くの県民参加のもと各種事業の展開に努めました。

また、行政をはじめ地区緑化推進団体など関係各位より格別のご指導ご協力をいただき、行政施策と連携し、効率的な事業推進を図ってまいりました。

1 森林・林業及び環境緑化普及啓発事業

森林・林業及び環境緑化にかかる県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施した。

(1) 情報誌・ホームページによる広報・普及宣伝

ア 情報誌などの発行

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、4月の緑化シーズンに併せ、信濃毎日新聞紙面を利用したグリーンキャンペーンを行うとともに、機関誌の発行(2,000部)、その他参考資料の配布を行った。

イ 緑の情報サービスの推進(ホームページによる情報発信)

県民参加による森林づくりを推進するため、森林・林業に係わる森林整備にかかる各種行事や、環境緑化等の情報などをホームページを用いて、森林ボランティア団体とのネットワークなどにより、情報発信して森林づくりへの実践参加を促進しました。

具体的には、ホームページの更新を随時行い、Q&A、募金報告、及び本年完成した絵本「太一と夜泣き松」の紹介をした。

(2) 植・育樹等事業

ア ふるさとの森づくり県民の集い(第59回長野県植樹祭)の共催

5月31日に長野市飯綱高原の長野市有林において、長野県、中部森林管理局、長野市、長野地方緑化推進委員会、須高林業振興会、長野森林組合などの協力を得て、「つなげよう 森の豊かさ 美しさ」をテーマに、一般県民約1,500人の参加により開催した。

植樹木は、カラマツ林の下層として、ヤマボウシ1,250本、シナノキ500本、ヤマモミジ1,250本、計3,000本を植栽した。

また、植樹祭にあわせて長野県森林インストラクター会等の協力のもとバスツアーによる森林教室を開催した。

北信、東信、中南信地区よりバス5台を運行し、県内から160名の参加があり、森林教室は、自然観察を通じ、森林・林業への理解を深めることができ好評でした。

イ 地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

国土緑化推進機構の緑と水の森林基金助成事業として、県下10地区において地区の実情に即し、森林の感謝祭、植・育樹など体験型の行事等を実施しました。

(3) 緑に親しむ集いの開催

森林とふれあい、様々な体験をすることによって、木に親しみをもちつとともに森林について関心を深めていただくために、主に親子向けのプログラムを年間30回、長野県林業総合センター学習展示館と共催で行った。毎回大変好評で合計1,193人の参加があった。

(プログラムの一例)

しいたけの植菌、森林観察、野鳥観察、木工教室・丸太切り、昆虫採集・昆虫の標本作製、燻製作り、きのこ教室、動物の足跡や冬芽の観察

(4) 野鳥愛護思想の啓発

小・中学校を対象に、児童・生徒たちの野鳥を愛し、緑をはぐくむ心を養うため、野鳥観察、巣箱づくり、架設など野鳥愛護活動を行う5校に対し、「信州の緑と野鳥を守る会」を通して助成した。

高島小学校(諏訪市) 富士見小学校(富士見町) 箕輪北小学校(箕輪町)
宮田小学校(宮田村) 飯田西中学校(飯田市)

(5) 森林整備講演会・研修会等の開催

様々な森林づくりのあり方や、その費用負担などについて県民の皆様と一緒に考える場として、10月26日に森林づくり現地見学バスツアーと安曇野市豊科公民館ホールで、「みんなで支えるふるさとの森林づくり」をテーマに「みんなで支える森林づくりシンポジウム～森林フォーラム2008～」を長野県、林業関係団体等と共催で実施した。

(6) 巨樹・古木をテーマにした絵本作り

国土緑化推進機構の助成を受け「木が伝えてくれる物語」の絵本を年間1冊のペースでシリーズとして5冊を作り、子供たちに命の尊さ、思いやりの心、人と人との絆など、子ども達自身が感じとれるような、メッセージとなる絵本を作成する。

- ・ 本年発行 「太一と夜泣き松」(大鹿村)
- ・ 本年調査 仮称「みずならが奏でるいのちの響き」(清内路村)
- ・ 次年度以降計画 仮称「贄川のとちの木」(塩尻市)
仮称「月瀬の大杉」(根羽村)
仮称「神戸の乳房いちょう」(飯山市)

また、売上げの一部は、森林づくりや子供たちの環境教育に役立てる。

(7) 子どもゆめ基金助成による教材の開発

(独) 国立青少年教育振興機構が所管する事業で、未来を担う夢を持った子どもの健全育成を目的に、インターネットなどで利用可能な子ども向け教材の開発と普及活動を行うため、「森の恵み、地域の恵み探検隊」として、プロジェクトを13テーマに分け、子ども向け教材を開発・製作して、緑の基金ホームページへ掲載した。

(テーマ別一覧表は別添パンフレットのとおりに)

2 森林づくり等実践参加促進事業

(1) ふるさとの森林づくり賞及び林業関係ポスター等コンクールの開催

森林づくり、森林環境教育、信州の木の利用などに優れた功績があった方や小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想の高揚を図るため、長野県、林業関係団体とともに授賞式を開催しました。

また、木の文化を継承する子供たちの心を育てる意味から、長野県木材青壮年団体連合会が主催する児童・生徒の木工工作コンクールに共催し表彰した。

- ・ふるさとの森林づくり賞及び林業関係コンクール(1月15日表彰)
長野県ふるさとの森林づくり賞 長野県緑の基金理事長賞 5名
林業関係ポスター等コンクール 長野県緑の基金理事長賞 23名
- ・長野県児童生徒木工工作コンクール(10月11日表彰)
木工工作コンクール 長野県緑の基金理事長賞 1名

(2) 森林環境教育指導者研修会の開催

自然に親しみ森林の重要性など次世代を担う児童や生徒に体験を通して学んでもらうことを目的に、本年は東信地域の教職員を対象に、主にチェンソーによる実習を組み入れた研修会を、10月31日に佐久市松井団地で行った。

アンケートで、今後の教育に役立つと答えた教職員が81%であった。

(3) ボランティア支援事業

ア 森林ボランティアリーダー研修

森林ボランティア活動に対する気運が高まっており、団体相互の連携と技術のレベル向上を図るための研修会を開催する必要がある。

しかしながら、本年予定した「森林に学ぶネットワーク」は、学生の研究成果(卒論)発表と社会人との交流の場とした活動計画としており、当初の目的・趣旨や特定団体への継続した助成になるので「森林に学ぶネットワーク」内で検討していただき中止することになった。

また、このような活動は、テーマに沿ってその都度公募事業として、公募が可能である。

イ 学校林整備・活用推進事業

国土緑化推進機構の助成(学校林整備・活用推進モデル学校林設定事業、学校林を活用した森林環境教育促進事業)を受け、学校林の整備等を行い青少年に森林体験活動の場と機会を確保し、学校林活動の普及推進と地域に根ざした森林環境教育の充実を図るため、NPO法人信州フォレストワークと共同で整備等を行った。

- ・長野市 松ヶ丘小学校の学校林(約1ha)

3 都市緑化等環境整備事業

（1）golファーの緑化促進協力会受託事業

GGG緑化事業（（社）golファーの緑化促進協力会、全国 366 社、うち県内 13 社）golファーの緑化促進協力金を受けて、公共施設の緑化を実施した。

区分	地区	実施主体	実施場所、樹種など
第61・62回	佐久	軽井沢町	軽井沢町大字長倉 軽井沢木もれ陽の里 イロハモミジ、レンギョ 57本
	長野	長野市	長野市鶴賀緑町 長野市ふれあい福祉センター カエデ、ハナミズキ、ヤマボウシ、アオキなど34本

（2）学校環境緑化推進事業

国土緑化推進機構の助成（学校環境緑化モデル事業・ローソン緑の募金）を受け、学校環境の緑化を通じて青少年への森林環境教育を推進することを目的に、原則として小学校敷地内の緑化（樹木の植栽、樹木の手入れ、ピオトープ等）を対象に、児童・生徒の参加のもと市町村・学校・PTA等、地域が一体となり事業を実施した。

- ・平野小学校（中野市） 落葉樹の植樹、樹木の手入れ、ピオトープ造成等
- ・上久堅小学校（飯田市）メダカ池整備、樹木の剪定等

（3）緑の相談窓口事業

「みどりのコンサルタント事業」報告書の中から代表的な事例を抽出し、緑化木等に関する相談・指導に対応する実用的な資料とするため、県林務部、樹木医会長野県支部、（社）長野県林業コンサルタント協会、当基金の4者で発刊に関する覚書に基づき、「みどりのコンサルタント事業事例集」を印刷したので、研修会及び各緑化推進団体等へ配布し、緑の相談実践書としての活用を図った。

4 その他

（1）国土緑化運動・育樹運動標語の募集

県下各地の小中学校より応募（80点）のあった中から 10 点を推薦した。
中央審査（応募総数 289 点）の結果、平成 21 年度標語に、次の 2 点が特選になりました。

国土緑化運動標語 「広げよう 緑は地球の 宝物」（愛知県小5）

育樹運動標語 「君の手は 緑を育てる 未来の手」（広島県小4）

（2）森の名手・名人100人の選定及び森の“聞き書き甲子園”への参加

平成 20 年度の森の名手・名人は全国で 95 名が選定され、うち長野県から、次表の

4名の方が選定され、県内の名手・名人は24名となりました。

また、森の名手・名人フォーラムが、上松町木曾勤労者福祉センターホールで開催され、県内の名手・名人や関係者が参加した。

なお、第7回“聞き書き甲子園”に県内の高校生3名、名手・名人4名が参加した。

氏名	年齢	市町村	内容
保科孫恵	79歳	伊那市長谷	林業
金田次郎	73歳	下伊那郡阿南町	シイタケ栽培
村地忠太郎	91歳	木曾郡木曾町	曲げ物、指物づくり
西田源一	79歳	木曾郡大桑村	野根板割

5 基本財産の運用

世界的な金融危機で輸出産業の生産が停滞、個人消費や雇用情勢の急速な悪化、更には米大手証券会社が経営破綻するなどドル安・円高が急速に進み世界の株式市場においても、当分の間、景気の回復が見込めない状況に陥っている。

そのような状況の中で基本財産の運用については、資金の約半分を運用益確保、残りの半分を安定資金と区分けし、平均利率2%以上を目標にしている。

平成20年度は、3月に入り円高が若干持ち直したため、基本財産受取利息収入の当初予算、9,064千円に対し、決算は9,610千円とほぼ同額を確保することができた。

6 出捐金の内訳

平成20年度末	5億8,700万3,399円
（前年度よりの増加額	34万3,411円）
＜内訳＞	
・長野県	150,000,000円（25.6%）
・市町村	123,000,000円（20.9%）
・民間	314,003,399円（53.5%）